

令和5年度学校評価報告書（目標設定）

観点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒自ら課題を設定し、課題解決に向けて主体的に探究することができる生徒の育成を図る。</p> <p>②グローバル化が進む社会で活躍できる生徒の資質・能力の育成を図る。</p>	<p>①新教育課程の全面実施に向けて、「指導と評価の一体化」の定着を図るとともに、履修指導を工夫し、生徒の希望進路実現を支援する。また、出欠席管理を徹底し、進学に係わる事故防止に努める。</p> <p>②生徒が授業において一人一台端末を活用して、主体的でより深い学びができるように授業改善に取り組む。</p>	<p>①單元ごとに「指導と評価の計画」を作成して生徒に示し、見通しを持った学習の支援を図る。選択科目説明会や担任面談等を通じて、履修指導をきめ細かく行う。ICTの活用で生徒の欠席、欠時等を正確に把握、管理し、進学先提出書類を適正に作成する。</p> <p>②各教科で一人一台端末を活用した授業を実践し、教員間で共有化する取組を進める。一人一台端末を効果的に使用できるよう、職員研修を計画、実施する。</p>	<p>①單元ごとの「指導と評価の計画」作成、公表し、計画的に授業を進められたか。選択科目説明会や担任面談等を通じて、きめ細かく履修指導を行えたか。ICTの活用で出欠席管理を適正に行い、事故防止の取組を強化することができたか。</p> <p>②各教員が一人一台端末を活用した授業を実践できたか。実践成果を教員間で共有できたか。研修によって端末を効果的に使用できるようになったか。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①豊かな人間性やコミュニケーション能力、主体的に行動できる人格の育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの適切な理解に基づく生徒支援体制と教育・健康相談の充実を図る。</p>	<p>①生徒が主体的に活動し、幅広いコミュニケーションを通じた活動が実現できるよう、生徒会行事や委員会、部活動を支援する。</p> <p>②感染状況の推移を注視し、生徒へ情報発信する。学年、グループ、学校運営の各場面で生徒情報を共有し、生徒一人ひとりの理解に努める。</p>	<p>①生徒が主体的に、学年を超えたコミュニケーションをとって行事などで活躍できるよう支援に努める。特に委員長などを中心に委員会運営ができるよう支援する。</p> <p>②感染防止対策や予防意識の変化に留意し、生徒が自らの健康に主体的に判断できるよう情報発信する。教育相談コーディネーターを中心に学年やグループ、養護教諭、SC、SSWの間で支援が必要な生徒の情報共有に努める。SSWの支援を受けながら、医療機関や児童相談所などの関係機関と連携を図る。</p>	<p>①生徒主体で行事を企画し、主体的に活動できる場面が増えたか。学年横断的なコミュニケーションは活発に行われたか。委員会運営を十分支援できたか。</p> <p>②生徒が自分の健康を意識し、健康的な生活を送るための支援はできたか。様々な生徒について、必要な情報を多くの職員が共有し、支援することができたか。SSWの支援を有効に活用し、関係機関と連携することができたか。</p>
3 進路指導・ 支援	<p>①生徒自らが進路を開拓・選択する力を培うとともに、第一希望の実現をサポートする。</p>	<p>①3年間を見通した進路指導計画に則り、組織的な進路指導を行い、生徒が自ら希望する進路を見出し、その希望する進路を実現するための手立てを実践する。また、3年生に向けた受験直前の支援を充実させる。</p>	<p>①卒業生の話を聞く会や外部講師活用各種講演会等によりキャリア教育の充実を図る。ハイレベルな学習スキルを養い、応用力の育成を図るなどHi-ゼミ活用に一層の充実を図る。3年1月のスタディショップは参加動向や生徒のニーズ面で再検討する。総合型選抜で小論文が必要な生徒が増えているため、小論文対策を行っていく。</p>	<p>①年度末に各学年に行う進路指導の満足度や必要な力が身についたかどうかの調査で、各回答が85%を超えたか。Hi-ゼミの充実は図れたか。スタディショップについて、生徒にとって魅力的なものになっていたか。進路グループが主体となって小論文対策を行えたか。外部の小論文対策講座を十分に案内できたか。</p>
4 地域等との 協働	<p>①PTAや地域との連携事業を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。</p>	<p>①PTAとの交流・連携事業について、新たな取組を実現する。また、コロナ禍以降の地域のニーズを反映させた、新たな地域連携を推進するとともに、地域貢献活動や他の学校などとの交流を継続する。</p>	<p>①コロナ禍で見直しが進んだPTAの活動形態を踏まえ、十分な協働体制で交流・連携事業を進める。学校運営協議会、同窓会等を通じて地域ニーズを把握し、今後の地域連携を計画、推進する。地域清掃、地域イベント、学校交流に積極的に参加させ、生徒に社会参画の意義を実感させる。</p>	<p>①PTAとの交流・連携事業について、新たな取組は実現できたか。地域のニーズは把握できたか。新たな地域連携は推進できたか。生徒の社会参画の意識は向上したか。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①大規模災害に備え、職員・生徒が協力して行動できる体制を整える。</p> <p>②生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①大規模災害に備えて学校防災活動マニュアルの見直しを図る。防災に向けて職員、生徒、近隣住民が協力して行動できる体制づくりを進める。</p> <p>②業務の効率化、業務時間の見直しに職員が協力して取り組み、タイムマネジメント意識の醸成を図る。</p>	<p>①学校防災活動マニュアルを整備し、大規模災害を想定した実践的な訓練を計画、実施する。防災教育を通じて生徒が危険個所を認識し、安全に行動できるようにする。横浜市との協定細則に基づくマニュアルの整備に努める。</p> <p>②リーダーを中心にグループ業務均分化を図る。部活動指導の組織化に向けて顧問の協力体制を強める。業務の見直し、会議設定の工夫などを通じて時間外労働の削減を図る。</p>	<p>①学校防災活動マニュアルの整備は進んだか。大規模災害を想定した防災訓練などを実施することはできたか。生徒は通学経路の危険個所を認識できたか。協定マニュアルの整備を進め、周知を図ることはできたか。</p> <p>②グループ業務の均分化は進んだか。組織的な部活動指導体制は進んだか。時間外労働の削減は進んだか。</p>